Report of the Yamagata Creative Cities International Conference 2025
やまがた創造都市国際会議2025

わがまちの映画資料——ユネスコ世界視聴覚遺産の日を祝して

［開催日］2025年10月11日（土）14:00–16:15
［会場］やまがたクリエイティブシティセンターQ1
［主催］山形市、山形市創造都市推進協議会、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
［協力］「やまがた秋・冬の芸術祭」実行委員会

山形市民会館
完成予想図

ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）に映画分野で加盟する山形市が毎年開催している「やまがた創造都市国際会議」。2025年は、同じく映画分野で加盟する韓国・釜山市、同ネットワーク国内加盟都市の浜松市、そして福岡・広島から専門家を迎え、映画資料が都市の持続的な発展にどう寄与し得るかを探りました。また、関連イベントとしてフォーラム山形で『フィルム 私たちの記憶装置』（2021）を上映しました。

あわせて、本会議は「ユネスコ世界視聴覚遺産の日」（10月27日）を記念して行われました。1980年に採択された「動的映像の保護及び保存に関する勧告」の25周年を機に制定されたこの記念日。関連イベントがここ山形市で開かれるのは、今回が初めてでした。当日は50名以上の皆様のご来場を賜り、関心の高さを目の当たりにすることとなりました。

山形国際ドキュメンタリー映画祭（YIDFF）の36年の歩みとともに、山形市には多くの映像資料が蓄積されてきました。1994年に開館した山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーに保管されているそれら資料は、市民の財産であり、映画祭の継続を支える基盤でもあります。

4名のゲストから具体的な取り組みを伺った前半では、設立の背景や規模の違いを超えて、共通の課題がいくつも浮かび上がりました。後半には、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事長の加藤到氏が、2029年に予定されている新たな市民会館への同ライブラリーの移転計画について、完成予想図を交えながら話題を提供しました。その後の議論も、経験に裏打ちされたゲストの力強い発言に、記憶を未来へつなぐ仕事の意義を改めて確認する時間となりました。以下にその一端をご紹介しますが、詳しくは、ぜひ当日の録画をご覧になってください。

今回共有された専門家の貴重な知見と並々ならぬ情熱が、山形市をはじめとする創造都市の持続可能な発展につながることを願ってやみません。

報告者：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー調査員　石原香絵

“創造都市・浜松の拠点として地域的な広がりを目指します”
浜松市鴨江アートセンター/木下惠介記念館 アートコーディネーター　稲垣知里氏

ユネスコ創造都市の音楽分野にアジアで初めて加盟した浜松市は、ヤマハやスズキといった企業が拠点を置くものづくりの街として発展してきました。製造業に従事する海外ルーツの住民が多く、多文化共生の先進事例も持っています。2018年以降は市の方針として、記念館とアートセンターが一体的に運営されるようになりました。木下惠介旧蔵の監督作品の16mmフィルムも引き継いでいますが、その価値は十分に評価されていません。小規模な施設ですがそれを言い訳にせず、発信力を高めていきたいです。

“時代遅れという偏見を覆し、市民のエンパワメントの場に”
広島市映像文化ライブラリー 映像文化専門官　森宗厚子氏

1982年に開館した当館は、地方自治体が運営する映像専門施設としては国内最古です。平和をテーマにした作品など、主に名作日本映画を集めてきました。これまで手薄だった地域映像については、収集したうえで活用を考えるのではなく、まず上映してから寄贈を呼びかけるという逆転の発想で、積極的に扱うようになりました。新たにフィルムアーキビストを1名雇用し、来春には駅前の商業ビルに移転します。国際フィルムアーカイブ連盟（FIAF）加盟は悲願ですが、その前に国内の連携組織の設立を目指しましょう！

“資料の価値を高めることこそフィルムアーキビストの仕事”
福岡市総合図書館文学・映像課 映像管理員　松本圭二氏

開館直後に地元TV局が廃棄するという約3,000本の16mmフィルムを引き取ったことがありました。後に周囲を説得してFIAFに加盟を果たした際、海外の専門家から高く評価されたのは、まさにそういった地域映像の存在だったんです。当初の設置根拠だったアジアフォーカス・福岡国際映画祭は2020年に終結しましたが、どうにか映画祭から発展的に自立する方向に舵を切ることができました。念願叶って今年デジタル・スキャナを導入しました。オープンしたばかりの展示室では郷土ゆかりの映画人に光を当てています。

“地域の映画の記憶を未来に残すため、努力は惜しみません”
釜山シネマセンター Busan Cinema Center (BCC) 釜山アジア・フィルムアーカイブ
フィルムアーカイブ・マネージャー　シン・ソンウン氏

BCCは釜山国際映画祭の主会場であり、様々なイベントを常時開催してもいます。映画祭を象徴する「ビッグルーフ」は世界最大規模を誇りますが、建物だけが立派でも意味がありません。華やかな映画祭の開催は歓迎される一方、市民向けの定期上映や地道なアーカイブ業務など、長期的な文化の土台づくりは軽視されがちです。完成図を拝見した山形の新市民会館のフィルムライブラリーは、映画と人々が日常的に出会う場ですよね。完成後に山形を再訪し、肝心要の中身を確かめるのを楽しみにしています。